

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『カンフー & チキン』
小嶋 陽太郎／作 (ポプラ社)



令和4年11月6日

～読んだ本の感想より～

- よく、こんな作戦を考えたなと思った。
- 松林君は子どもなのに、盗聴器を使った計画なんてよく思いついたなあ。
- 最初は避けがちだった2人の関係が、三森も加わり、そして格兄たちも入って、朝ガエルメンバー全員で力を合わせて悪を制してしまうのが、とてもよかったです。
- 1人ではできないことも、仲間とならできるのだなと思いました。
- 夜明けスコーピオンのリーダーが藍原ということが分かって、「もしかして!？」と思って、おもしろかったし、最後はみんなの仲も深まり、スコーピオンも倒せてスッキリしました。
- あやまちを正すことの大切さが分かった。

『星のラジオとネジマキ世界』日向 理恵子／作 (PHP 研究所)

- この本を読んで、不思議なことを体験してみたいと思った。なぜなら、このことで人生が大きく変わりそうだからだ。
- なぞの怪物が本当にいたら、いやだなと思った。
- ことり・タケル・ミツヨシの協力シーンがとてもよかった。
- 3人とも、仲よしのままでいてくれたらいいなと思いました。
- 設定や人物の立ち位置がよかった。
- ポーの死やとつぜん現れた空にうかぶ何かなど、いろいろなものが登場しておもしろかった。

『海をわたる動物園』いちかわ けいこ／作 (アリス館)

- なぜ船にいろいろな動物がのるようになったのかが不思議でした。
- 動物を大切にしようと思った。
- 「みんなを笑顔にする!!」という言葉はすてきな言葉だと、この本を読んで改めて思いました。
- だれもが戦争の時に自分の事でせいっぱいで、動物園の動物たちを優先してあげられなかったと考えると悲しくなりました。
- 海をわたる時に動物たちのことを1番に考えて、動物たちの船の置き場所を決めたところが、いいなと思いました。

『この空のずっとずっと向こう』鳴海 風／作 (ポプラ社)

- 怪異研究始めの時と同じように、江戸も女性の地位が低く、家以外で中々働くことができない時代の中、そらは必死に英語の勉強をしたのが凄いと思った。
- 今では学校でみんなが習っている英語が、昔は分かったらすごいことだったのだなと思いました。
- そらが英語を学んで話していた時には、自分より英語が話せていてすごいと思った。
- 父も母もなくしたこの女の子が、前向きに人生に向かっていけるなんて、すごいと思った。